PRESS RELEASE

国立大学法人 徳島大学

令和 8 年 10 月 30 日

徳島大学病院消化器・移植外科 ロボット支援下手術が累計 1,000 例を突破

ー四国をリードする低侵襲・高精度な消化器外科医療を推進ー

＜ポイント＞

・徳島大学病院消化器・移植外科におけるロボット支援下手術が、令和 8 年 9 月に累計 1,011 例に到達しました。

・胃、大腸、肝臓、膵臓と消化器外科領域の幅広い疾患に、ロボット支援下手術を積極的に導入し対応しています。

・ロボット支援下手術に加えて、経肛門的アプローチ（経肛門的直腸間膜全切除術 TaTME）や、Extended Reality（XR）を応用した術中ナビゲーションなど、徳島発の先進的な手術技術の開発・臨床応用にも取り組んでいます。

＜報道概要＞

徳島大学病院消化器・移植外科では、胃がん、大腸がん、肝がん、膵がんなど消化器疾患に対する外科治療を行っており、患者さんの身体への負担を軽減し、より精密で安全な手術を実現するため、ロボット支援下手術を積極的に導入しています。令和 8 年 9 月までに、合計 1,011 例のロボット支援下手術を実施し、1,000 例という大きな節目を迎えました。

また、ロボット支援下手術の症例数を増やすだけでなく、次世代の外科医療につながる新しい技術の開発や Extended Reality（XR）を手術中のナビゲーションに応用する研究も進めています。

今回のロボット支援下手術 1,000 例到達を一つの節目として、徳島大学病院消化器・移植外科では、これまでに蓄積した豊富な手術経験を基盤に、ロボット支援下手術、新たな手術アプローチ、XR による術中ナビゲーションなどを融合し、患者さんにより安全で質の高い外科医療を提供するとともに、徳島発の革新的な外科医療を国内外へ発信していきます。

＜ロボット支援下手術の特徴と徳島大学病院消化器・移植外科の実績＞

ロボット支援下手術では、3 次元の高精細な拡大画像を見ながら、手ぶれを補正した繊細な操作を行うことができます。これにより、血管や神経などの重要な構造を確認しながら、精緻な手術を行うことが可能となります。我々は、手術支援ロボットである「da Vinci」及び「hinotori」を用いたロボット支援下手術を胃・大腸領域から肝臓・膵臓領域へと広げ、令和 8 年 9 月までに、胃切除 313 例、大腸切除 578 例、肝切除 82 例、膵切除 38 例、合計 1,011 例のロボット支援下手術を実施しました。

770-8501
徳島市新蔵町 2 丁目 24 番地
電話番号 088-656-7021
https://www.tokushima-u.ac.jp /

＜先進的な手術手技の開発・臨床応用＞

下部直腸がんに対しては、肛門側から手術を行う経肛門的アプローチ（経肛門的直腸間膜全切除術 TaTME）を取り入れ、骨盤の深い位置にある腫瘍に対して、良好な視野のもとでより確実な切除を目指しています。さらに、Extended Reality（XR）を手術中のナビゲーションに応用する研究も進めています。患者さんの立体的な臓器情報を術中に確認することで、手術の安全性向上や手術教育への活用を目指しており、徳島から世界に向けて新しい画像支援型手術を発信しています。

お問い合わせ先
徳島大学病院消化器・移植外科
担当者　副診療科長／講師　齋藤　裕
電話番号　088-633-7139
メールアドレス　saito.yu.1001[ｱｯﾄ]tokushima-u.ac.jp
※メールを送信される場合には、[ｱｯﾄ]を@に置き換えてください。